

サンタが木場公園にやってくる!

2009年12月19日(土) ES関東クラブ X'mas大会 (都立木場公園)



昨冬好評を博したES関東クラブのクリスマスイベントが、今年は都立木場公園に場所を移し、スプリントOとトレイルOが開催される。昨年の様子を紹介しつつ、今年の大会を想像しよう。

■ クリスマス一色の公園 普及につながるイベント■

昨年、ES関東クラブは、4年ぶりにクラブの大会を東京都立大島小松川公園で開催した。それは、まさにサンタクロースが公園に舞い降りたクリスマスイベントであった。



「単にオリエンティアのためだけの大会でなく、普及につながるイベントにする」が実行委員長を務めた寺嶋一樹の決めたコンセプトであった。妻貴美江をはじめとするママさんクラブ員は、独自にポスターを作成して、子供の友達を連れ出すことにも成功した。

晴れ渡った冬の日、会場となった自由の広場にはサンタクロースの間を、地図を片手に「あった!」と元気よく駆け抜けていく子供たちの歓声があがっていた。

■ 副賞「こんぱすチョコ」■

各クラスの上位入賞者には、手巻きの「こんぱすチョコレート」が副賞として贈られた。これは当日運営ができない柳澤貴・千賀子・創一家がアイデアを含め買って出たものである。



このコンパスを模ったチョコレート、柳澤家が製作するのは2回目である。

1回目は17年前、夫妻の結婚パーティに際し、臨席者に配られたもので、その見事なできばえに、製作エピソードとともに一堂驚嘆の声が上がったのである。そのことを知る多くのクラブ員の期待が大きく押し掛かったが、新たにサムコンパス型を登場させ、参加者のみならず運営者の度肝を抜いた。

■ 3箇所に分かれたエリア■

大島小松川公園は、TVドラマ「小児病棟」にも登場した芝生広場が見事な公園である。再開発により住宅地と広域防災公園を一体整備されたもので、南北に流れる旧中川のはさんで4箇所に公園が配置されている。

女子日本代表の渡辺円香の手によって3箇所のエリアを橋と河川敷でつないでコースは設定された。変更の都度、夫小暮喜代志が再調査・作図を行ったことは言うまでもない。

■ クラブを知ってもらいたい 答え クイズ付アンケート■

「今後のために、アンケートとりたよね。」・「でも、アンケートって自分ではなかなか書かないよね。」・「ES関東クラブのこと、クラブ員のことをもっと知ってほしいよね。」そんな声の中、どうすれば、参加者の意見を数多く集められるか知恵を絞った結果登場したのがクイズ付アンケートであった。

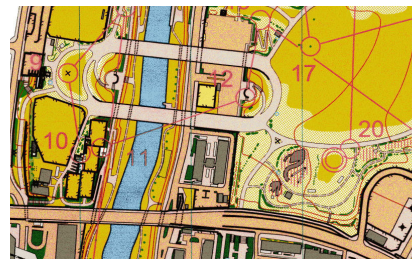
『クラブ員の中でオリエンタリングの世界選手権の出場経験者は何人でしょう』といったクラブ員に関するものや、大島小松川公園に関するものが出題され、参加者はクイズの正解数によって、参加賞を選ぶことができた。

このアンケート、若干15歳で今年世界ジュニア(JWOC)の日本代表となった宮川早穂がその中心的役割を果たした。

ちなみに先ほどの答えは8人。フット5人、トレイル3人、スキー1人、宮川祐子はフットとトレイルの両方で代表となっている。(詳細はHPで)

■ 「やっぱ豚汁だよ」■

「やっぱ豚汁だよ」前会長である齋藤宏顕(通称「ツネヲ」)のわがままな一言から参加者への無料提供は決まった。そこから、妻積子、小林正子をはじめとする炊出し班となった女性陣は大変であった。前日、佐賀県産のさといも8kg、国産豚肉4kg・・・、こだわりのある材料がテレイン内にある寺嶋家に持ち込まれ、250人前の豚汁が用意された。



今年の大会に関する情報

■ 藤沼崇がコース設定 ■

今年は、東京駅からもバスが出ている木場公園に場所を移して大会が開催される。しかも、スプリントOに加えて、トレイルOも実施される。

木場公園もまた都心にある公園の宿命であるかのように、東西に走る道路と河川によって、公園は南北に分割されている。

スプリントOのコース設定は、藤沼崇が行なう。初代日本スプリント選手権者である加藤弘之、WOCで2度決勝を走った実績を持つ山口大助という両名がいる中で、自ら手を挙げた。この1年スプリントに特化した準備をし、今年見事にWOC初出場を果たして一回り大きくなった彼の組むコースがどんなものとなるか大いに楽しみである。

キッズOほか初心者向けのコースは近隣住民である広江望が、夫淳良ほかが調査した地図を基に設定する。

■ トレイルOも期待大 ■

当クラブには、トレイルOの実力者も多い。今回、初代日本選手権者で愛知のWTOC2005で3位入賞し、IOFの世界選手権のメダルを獲得した初めての日本人となった杉本光正が競技責任者を、コース設定は、第3回日本選手権者となり、WTOC2007で第6位、以後08,09と3年連続で日本代表となった大久保裕介が務める。

■ 今年はどんな仕掛けが■

昨年の様子を紹介しましたが、やっぱりES関東クラブの楽しさは、うまくお伝えできないというのが正直な気持ちです。実際に参加していただき、直に触れていただくことが一番です。

「百聞は一見にしかず」迷わずご参加ください。皆さんの期待は決して裏切りません。

(特派員 ES関東クラブ 齋藤宏顕)